

厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)
(分担研究報告書)

科学的根拠に基づくがん情報の迅速な作成と提供のための体制整備のあり方に関する研究
各学会・団体での患者・市民向け情報の作成・提供への取り組み (日本がんサポーターズ学会からの検討)

研究分担者 田村 和夫 日本がんサポーターズケア学会 (顧問)

研究要旨

日本がんサポーターズケア学会は支持医療に関する17の部会と9つのワーキンググループ (WG) が活動しており、それぞれの領域における客観的な情報を集積・解析し、現時点で適正と考えられる診療ガイドを作成し公表している。2022年度はテキストブックとして「よくわかる老年腫瘍学」「がん支持医療テキストブック～サポーターズケアとサバイバーシップ」、診療ガイドとして「遺族ケアガイドライン2022年版」「がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン2022年版」、「がん患者におけるせん妄ガイドライン2022年版、第2版」、患者向け情報誌として「がんサバイバーのための皮膚障害セルケアブック」を発刊・公表した。また、支持医療普及活動として、市民公開講座を開催しその内容がマスコミにとりあげられた。

A. 研究目的

支持医療領域における適正な情報を発信していくことを研究目的とする。

B. 研究方法

日本がんサポーターズケア学会 (JASCC) は支持医療に関する17の部会とexercise oncology, stroke oncologyの2つのワーキンググループ (WG) を加えて2022年度は9つのWGが活動している。各部会、WGは、それぞれの領域における客観的な情報を集積・解析し、現時点で適正と考える診療ガイドや患者向けガイドブックを作成し公表している。

支持医療のテキストブックを多職種、多専門家が執筆し・発刊する。また厚生労働省科学研究 がん対策推進総合研究事業「高齢者がん診療ガイドライン策定とその普及のための研究」(研究代表 佐伯俊昭) 研究班がJASCCや高齢者がん医療協議会と協働で老年腫瘍学テキストブックを作成した。その成果物をJASCCが編集して発刊する。

JASCCと国立がん研究センター・医療情報センターは、申し合わせを交わし、医療情報提供部が作成したコンテンツの査読を関連したJASCC部会で実施している。また、支持医療の普及に向けて市民公開講座を開催し、その内容がマスコミにとりあげられるよう広報活動をする。

(倫理面への配慮)

COIのマネジメントは、JASCCのCOI委員会で実施した。

C. 研究結果

・医療情報提供部が作成したコンテンツレビューは、2022年度はなかった。

・「よくわかる老年腫瘍学」「がん支持医療テキストブック～サポーターズケアとサバイバーシップ」の2冊のテキストブックが多職種、多専門家によって執筆・発刊された。

・サイコオンコロジー部会は、日本サイコオンコロジー学会と共同でがん医療におけるこころのケアガイドラインシリーズとして「がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン2022年版」、「がん患者におけるせん妄ガイドライン2022年版、第2版」を作成・発刊した。

・oncodermatology部会は、患者向けのガイドとして「がんサバイバーのための皮膚障害セルケアブック」を作成・発刊した。

・第7回日本がんサポーターズケア学会学術集会に合わせて、がんサバイバーを招いて市民公開講座「がん治療を耐える治療から少しでも楽な治療へ」を開催し、2022年8月16日付け日経BP「がんナビ」でその内容が紹介された (<https://medical.nikkeip.co.jp/leaf/all/cancernavi/report/202208/576047.html>) 。

D. 考察

上記、2つのテキストブックは、日本の老年腫瘍、支持・緩和医療領域の初めての教科書であり、両領域における臨床・研究・教育の基盤となるものである。

る。医療・教育の場だけでなく、患者・家族、がんサバイバー、行政にも役立つもので、今後のこの領域の発展に寄与することが期待される。

がん患者・家族の心のケアは重要であり、日本サイコオンコロジー学会と共同でガイドラインを作成している。とくに今回は患者-医療者間のコミュニケーションに焦点をあててガイドラインを公表した。医療者のコミュニケーションスキルの向上に役立つものと期待される。さらに患者マネジメントだけでなく予後にも影響するせん妄に関してアップデートし、その予防・治療により適正に対応できることが期待される。

支持医療領域における適正な情報を速やかに発信するために、継続して国立がん研究センター・医療情報センターと協力して活動していく予定である。

市民公開講座の開催は支持医療の普及に寄与し、その内容がマスコミのウェブサイトに掲載されたことは、全国に情報が発信できる良い機会となった。ITを使つての支持医療の積極的な普及活動は、医療者だけでなく一般人、患者・家族への情報提供に極めて有用であると思われるので、積極的なマスコミへのアプローチが必要と考えられる。

E. 結論

支持医療領域におけるテキストブック、ガイド・手引書の作成・公表を行っている。また、老年腫瘍学のテキストを発刊した。がん情報コンテンツのアップデートのために国立がん研究センター・医療情報センターと協働していく。支持医療の普及にはITを使つての情報発信が有用と考えられ推進する。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

3. 書籍

- ・がんサバイバーのための皮膚障害セルフケアブック 日本がんサポーターケア学会
Oncodermatology部会編 2022年4月20日

小学館クリエイティブ

- ・がん患者におけるせん妄ガイドライン 2022年版 第2版 日本サイコオンコロジー学会/日本がんサポーターケア学会編 2022年6月10日 金原出版
- ・がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン 2022年版 日本サイコオンコロジー学会/日本がんサポーターケア学会編 2022年7月4日 金原出版
- ・遺族ケアガイドライン 2022年 日本サイコオンコロジー学会/日本がんサポーターケア学会編 2022年7月4日 金原出版
- ・がん支持医療テキストブック サポーターケアとサバイバーシップ 日本がんサポーターケア学会編 2022年10月14日 金原出版
- ・よくわかる老年腫瘍学 日本がんサポーターケア学会編 2023年3月20日 金原出版

4. その他

- ・読売新聞 yomiDr.ヨミドクター
<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20220411-OYTET50020/>
- ・宇和川匡：外科医ならではのがん支持医療もあることを訴え外科医の参加を促す 2022年4月15日
- ・佐伯俊昭：全国のがん拠点病院に「サバイバーシップセンターを」を あらゆる病気に通じる支持医療の重要性 2022年5月20日

